

<休校にあたってのご挨拶>

本校は、明治10年、堂浦磯崎の地に板野郡公立堂浦小学校として創立して以来、大正2年には、大江の山にいだかれた現在の地に新築移転し、また、昭和22年には、現在の校名「鳴門市瀬戸小学校」に改称するなど、幾度かの改編・校名変更を経ながら140年の歴史を歩んで参りました。本校の教育実践をふり返りますと、昭和49年には、学校放送教育における先進的な取組が認められ文部大臣賞を受賞いたしました。また、昭和59年には、第4回全日本小学生バレーボール大会女子の部で全国優勝を果たすなど、文武両道にわたって多くの輝かしい実績を積み重ねてくることができました。これらは、紛れもなく、児童や保護者の皆さんの「いっしょうけんめい」のご努力と、地域の皆様の絶大なるご支援・ご協力、また、先輩の諸先生方の真摯なお取組が結実したものと、心より敬意を表するとともに、本校教職員としての誇りを感じるところです。

本校は今年、休校という大きな節目を迎えることになりましたが、鳴門市当局や鳴門市教育委員会、そして地域の皆様など、関係各位におかれましては、永年にわたり本校教育に温かいご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございました。特に昨年の夏、本年度末をもって休校することが決まってからは、瀬戸小学校が地域の皆様にどれだけ愛され大切にされてきたか、そして、その地域の宝が休校することの寂しさを深く感じる日々でした。その中で、最後の運動会や学習発表会の開催にあたっては、これまで以上に心のこもった温かいご支援をいただき、休校年度にふさわしい思い出に残る教育活動を実施することができました。また、記念誌の配布や記念式典の開催など休校関連事業の推進につきましても、推進協議会の皆様を始め多くの方々に多大なるご尽力をいただき、お陰をもちまして滞りなく遂行することができました。本当にありがとうございました。

今年度、本校の児童数は8名でした。4月から、4名は中学校に、4名は明神小学校に通うようになります。校歌にもうたわれた、小鳴門の海や、大江の山、み山の緑に囲まれたこの美しい学校から、子どもたちの声が聞こえなくなることは、本当に寂しいことです。しかし、今年度末をもって、鳴門市瀬戸小学校という「かたち」は、その歩みを止めることになっても、この学校で学んだ多くの子どもたちや保護者、教職員、そして地域の皆様の、たくさんの思い出がつまった「瀬戸小」という「こころ」は、いつまでもけっして消え去ることはありません。瀬戸小がこれからもずっと地域とともにあり、皆様に愛され続けることを願ってやみません。どうかこれからも、瀬戸小に変わらぬご厚情を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。休校にあたっての、お礼のご挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。

平成30年3月17日

鳴門市瀬戸小学校長 藤本孝之